



ビンナガ

北太平洋

主な漁業と漁期

竿釣り: 春～秋(未成年)
はえ縄: 冬(成魚)

生態

ホワイミートと呼ばれ、高級な缶詰原料として利用されてきましたが、近年は脂がのったものを「ビントロ」や「とろびんちょう」と称して、生食利用でも人気があります。

●分布・回遊

太平洋においては、北緯50°から南緯45°の広い海域に分布し、北太平洋と南太平洋の2系群が存在するとされています。

北太平洋の系群は、高緯度海域で東西に大きく回遊することが確認されています。漁場の大部分は北緯25°以北の索餌域に相当する海域です。

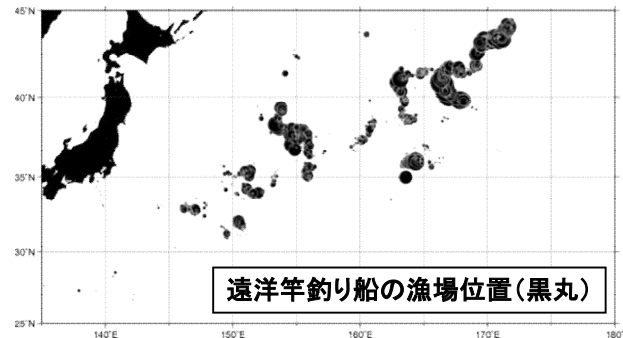
●産卵期・産卵場

産卵は、台湾・ルソン島付近からハワイ諸島近海において、水温24℃以上の水域で周年(4～6月盛期)行われていると推定されています。

●成長・成熟

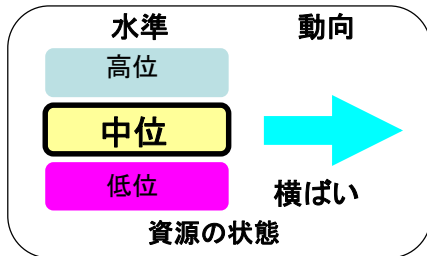
成長は1歳で尾叉長50cm程度、2歳で60cm程度になり、5歳では90cm程度に達します。そして8歳で100cm程度になり、寿命は16歳以上と考えられています。

成熟は卵巣の成熟状態から雌の最小成熟体長は尾叉長約90cm(5歳)と考えられています。



漁業・資源動向

【資源】



- 産卵親魚量は増減を繰り返し、1995年にピークを示した後、2003年頃まで減少し、その後横ばいで推移していると推定されました。
- 加入量は平均値周辺で横ばいに推移し、近年も大きな変化は見られませんが、推定値の不確実性も大きく、確かなところは不明であると判断されました。
- これらのことから、3年に一度実施される最新の資源評価(2020年)では、資源水準は中位、動向は横ばいと評価され、現状の漁獲の強さは過剰ではなく、資源状態は乱獲ではないと推定されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_08S_ALB-NPO.pdf

詳細 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_08_ALB-NPO.pdf

【漁業】

- 2007年以降、北太平洋全体では年間4.5～9.1万トン、日本では年間2.2～6.7万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への竿釣り船による水揚量は、0.2～1.6万トンで推移しています(図下)。
- 静岡県には冷凍物が主体に水揚げされます。

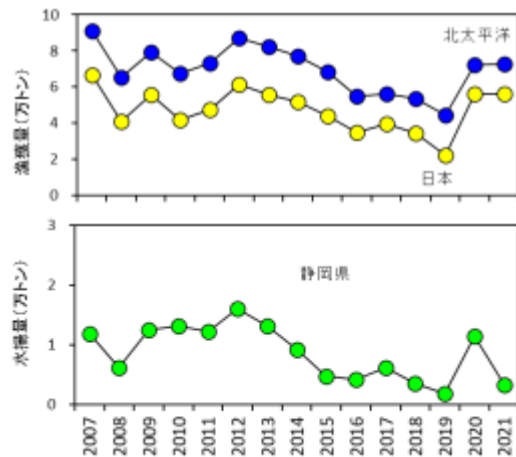


図 北太平洋と日本のビンナガ漁獲量の推移(上)と静岡県のビンナガ水揚量(竿釣り船による)の推移(下)

担当者の一言: まぐろ類の中ではやや小型の種。地域によって「ピンチョウ」や「トンボ」などと呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817